

公益社団法人 横浜市幼稚園協会発行
 〒221-0055
 横浜市神奈川区大野町1-25
 横浜ポートサイドプレイス アネックス5F
 電話 045 (534) 8708
<http://www.kids-yokohama.or.jp>
 編集 横浜市幼稚園協会広報部
 発行者 木元 茂
 印刷所 合資会社横浜大気堂

協会報 浜私幼

園長・設置者版

No.250

- ▼新年意見交換会開催
- ▼H24年度 1年間を振り返って
- ▼政令市 名古屋協議会開催
- ▼第2回 園長・設置者研修会
- ▼各表彰受賞者



平成25年 横浜市幼稚園協会新年意見交換会開催

平成25年1月30日(水) ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル

横浜市幼稚園協会と父母の会連合会主催の新年意見交換会が、1月30日(水)ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルにおいて開催された。公務多忙中にもかかわらず林文子市長及び、行政関係者をはじめ国会・県会・市会の各議員の方々や養成校の先生方の他、多数の園長・設置者の皆さんがご参加くださった。まず、木元 茂横浜市幼稚園協会会長が挨拶し「就園奨励費補助金の堅持、教員の資質向上のための研究・研修会への助成について、横浜市長・市会・行政の皆様のお蔭と感謝申し上げたい。平成27年4月には、子ども子育て関連3法に基づく新制度がスタートするが、各園それぞれの思いを大切に幼稚園教育ができるよう、園長先生や保護者に協会として情報提供をしっかりと行っていく。新制度下でも市民に定着している預かり保育の制度については、存続できるよう行政当局にはご配慮を賜りたい。今年7月には政令指定都市私立幼稚園団体協議会横浜大会が開催されるので、大会運営についてご理解とお力添えを賜りたい」と述べた。続いて宮陽子父母の会連合会会長が就園奨励補助金のお礼を述べるとともに「子どもと共に過

ごした幼稚園生活はとても楽しく、今年度で卒園するのはとても寂しい」と子どもへの愛情あふれる思いを語った。続いて、挨拶に立った林文子市長は、幼児教育と預かり保育への協力に対するお礼を述べられ、「希望あふれる横浜の未来を描き、子ども達に引き継いでいくため、横浜をさらに大きく飛躍させる年にしましょう」と話された。その後、各議員、行政、養成校、父母の会の方々が登壇し一言ずつ挨拶をいただき、渡邊眞一神奈川県私立幼稚園連合会会長のご発声で乾杯をし、幼児教育への理解と協力を誓い合った。



林 文子市長



木元 茂横浜市幼稚園協会会長



宮 陽子父母の会連合会会長



平成24年度 一年を振り返って



副会長
田野岡 由紀子

公益社団法人としての一年目が4月スタートいたしました。さっそく4月2日横浜市子ども青少年局長鯉淵信也様を正副会長、総務、幼児教育振興の部長で訪問することから、新執行部の活動が始まりました。運営の仕方は今までと異なり、理事会は年3回、運営の主体となる運営委員会は毎月行うことになりました。

今年度の一番の課題は、「子ども・子育て関連3法」が8月に可決され、「子ども・子育て新制度」の内容を巡っての対応でした。9月に「子ども・子育て3法特別委員会」を立ち上げました。また、11月にこの制度を理解していただき、今後の各園の方向を決める手掛かりになるよう、木元茂会長が解説を書いて広報誌に載せました。制度としての選択肢はあっても、いまだに具体的な判断材料がなく、国の動きは不透明のままですが、執行部としては、こども青少年局と話し合いを何回か進め、政令指定都市として、どう対処するか意見交換をしてまいりました。

もう一つの課題は、今年の7月11日(木)、12日(金)に開催される政令指定都市私立幼稚園団体協議会横浜大会の準備です。昨年5月から準備会が始まり、6月にプロジェクト委員会が発足しました。順調に準備を重ね、1月には、浜市幼の運営委員会47名による実行委員会に移行し、各小委員会ですべての案を出していただき、全体テーマや分科会テーマもほぼ決まりました。こ

の協議会は毎年7月に大会を開き、15都市の各協会の幹部と行政が一同に会し、各都市の行政発表をしていただき、分科会で協議し、各都市に持ち帰るとい、全国でも数少ない団体の一つです。7月の開催頃は、おそらく「子ども・子育て新制度」に対する国の動きも活発になってくることも予想されます。実行委員会でもテーマを決めるのに熱心に議論いたしました。園長・設置者の皆様もぜひ参加して、情報を得ていただきたいと思います。

わが横浜協会の事務局に行くとき予約を書いたホワイトボードがいつも何かの会合でうまっています。それだけ各部の先生方が、頑張ってくださいているということです。今回各部長に一年間の活動報告をお願いいたしました。各部では前年度以上に公益性を意識して活動をしてくれたのではないかと思います。

最後になりましたが、園長・設置者の皆様方、一年間ご理解ご協力をいただきありがとうございます。



総務部長
鈴木 浩

今年度から、社団法人にピリオドが打たれ、公益社団法人としての年がスタートしました。年度最初に木元会長から公益性について各部署単位で何が出来るかを考えて各事業に取り組んでもらいたい旨を告げられ、すべての事業に公共性を考慮に入れながら総務部全体で取り組みました。

新部長の体制の下、事務局の担当が変わる中で、当初から皆様には大変ご迷惑をおかけしたと思います。心からお詫び申し上げますとともにご協力に感謝申し上げます。

今年度も幼稚園大会の永年勤続表彰、園児募集特別委員会の開催、個人宗教学法人立委員会の開催、新年意見交換会と皆様のご尽力により開催することができました。また、8月に「子ども子育て関連3法」が成立し、それに伴う、横浜市との打ち合わせ会や県の説明会があり、横浜市幼稚園協会としても3法のためのプロジェクト委員会を立ち上げ、行政との関わりの方向性や新幼保連携こども園・現在の預かり保育幼稚園の方向を検討していくこととなりました。これらの件は平成27年度に向け、来年度も継続的に少しでも早い情報提供ができるよう心がけてまいります。

4月に総務部長として拝命を受けましたが、何も分からず部員の皆様に助けていただきながらの一年でした。本当にありがとうございます。また、関係者の皆様のご理解とご協力に大変感謝申し上げます。一年間ありがとうございます。来年度は7月に政令指定都市の横浜大会が予定されております。ぜひ、皆様の参加とご理解をお願い申し上げます。



財務部長
羽田 哲

横浜市幼稚園協会が公益社団法人となり、初年度の活動となりました。予算管理では各事業の収支を公益法人会計基準に則り、適切に会計処理をしていきました。事務局の努力により、導入した会計ソフトを使いこなし、事務処理が効率化されました。各支部の会計処理も公益法人会計基準に準じて行われ、月末閉めで会計書類を本部に提出して頂いたご苦労に感謝します。

平成25年度の予算作成においては、政令市私立幼稚園団体協議会横浜大会の開催や、教研大会会場をパシフィコ横浜とする事などを考慮しました。最後に、神奈川県私立幼稚園連合会への貸付金5千万円が返納されたことを報告いたします。



**研修事業部長
山崎 和子**

おかげ様で平成24年度の研修事業部の事業すべてが無事に終了できましたことをここに報告申し上げます。これは一重に加盟園の諸先生方のご理解ご協力があったことと心より厚く御礼申し上げます。

研修事業部では幼稚園教育の質の向上を計り、時流に合致した事業ということで

- ①既存の研究講座で免許更新ができる様にする。
- ②幼保小の連携を密にし、接続期を共に考える。
- ③園長・設置者研修では「今一番の関心事は?」と考えて設定する。上記の3点を大切に、開催しました。

制度がどのように変化しようと“すべては子どものために”を忘れることなくこれからの事業を進めていく所存です。どうぞよろしく願い申し上げます。



**教育研究部長
本田 俊章**

平成24年度の教育研究部の全ての事業が無事に終了することができ

ました。それも協会加盟園の先生方のご協力のお陰であると心から感謝するとともにお礼申し上げます。

平成24年度を振り返ってみますと、横浜市幼稚園協会の公益法人化、子ども子育て3法案の成立、横浜市が作った接続期カリキュラムの普及等、幼児教育界に新たな課題が山積みの年でありました。その中で幼児教育の基本に立ち返り、進むべき道を探ってまいりました。更に平成25年度は大事な年になります、引き続き研究・研修活動に皆様の益々のご理解・ご協力をよろしくお願い致します。



**経営管理部長
川戸 俊明**

今年度も社会変化によって生じる諸問題に関する研修会をはじめ、幼稚園の実態調査をしてその分析をおこない、幼稚園教諭養成校との連携事業、需給対策事業、園児の安全を図る防犯研修等を行いました。止まることのない子ども達と関わることに喜びを感じ沢山の事柄に向き合いながら、お忙しい皆様にご理解ご協力を頂き本年度もここまでこれたことに感謝いたします。

幼稚園経営の方向が難しい中ですが「育てる責任、胸に」前進できればと思います。これからも部員一同よろしく願い申し上げます。



**幼児教育振興部長
石井 和則**

今年度も平成25年度横浜市予算に対する要望書を作成し、6月か

ら7月にかけて自民党・民主党・公明党・みんなの党と、木元会長をはじめ副会長そして父母の会のお母さん達も同行し、就園奨励補助金の堅持と増額、幼稚園協会に対する助成金の堅持、政令指定都市私立幼稚園団体協議会横浜大会開催に対する補助、防災備品の助成、特別支援補助・臨床心理士の訪問回数確保などについての予算要望をしてまいりました。

平成25年度は、新制度に向けて将来の幼稚園経営をどのような方向に舵を切っていったらよいのかを見極める重要な年になりそうです。市町村が窓口となるため、より横浜市の動向を注視しながら幼稚園協会としての意向をきちんと伝えるよう積極的に働きかけていきます。1年間ご支援ご協力ありがとうございました。



**広報部長
井上 貴恭**

広報部が計画していました事業も、皆様のご協力によりすべて無事終了することができました。

協会報『浜私幼』では、子ども子育て3法のシステムを設置者の皆様に周知していただくため臨時号を発行しました。また区分の「一般版」に読者様から解かりにくい等の意見が多数あり、次年度へ向け名称の変更を検討したいと思っています。協会報は横浜市幼稚園協会のホームページにも随時アップしています。

来年度も公益法人として、幼児教育の重要性を市民の皆様へ伝えるための広報活動に重点をおき取り組んでいきたいと思っております。

第32回 政令指定都市私立幼稚園団体協議会 名古屋協議会 開催報告

平成25年2月7日・8日に「第32回政令指定都市私立幼稚園団体協議会 名古屋協議会」がウェスティンナゴヤキャスルで開催され、政令指定都市15都市の代表約70名が参加し研究協議会が行われた。1日目は政令指定都市私立幼稚園団体協議会の運営に関わる5つの協議題に基づいて話し合われ、2日目には「質の高い幼児期の学校教育を考える」と題して基調講演が行われた。

基調講演「質の高い幼児期の学校教育を考える」

講師●文部科学省初等中等教育局幼児教育課 教科調査官 津金 美智子 氏

質の高い幼児期の学校教育を考えるには・幼稚園教育の基本を踏まえる・幼児期からの体系的な教育の実施・幼稚園における学校評価の推進の3つの視点があると話された。

さらに遊びの意義としては、①主体的に対象とかかわり自己表出する

②知識を蓄えるための基礎が形成される ③自分を取り巻く社会の感覚を養う、の3点を示し事例を挙げて説明していただいた。はじめに幼稚園になじみ友達やほかの人に歌や踊りを見せたくてきている3歳児の秋の様子について話されるとともに、何気ない中に自分を表現する子どもの姿

をきちんと見逃さない先生であってほしいと述べられた。

次に知識を蓄える基礎ということでは、ごっこ遊びの中で必要感に迫られて文字を書き読み伝える楽しさを味わっている様子やティッシュペーパーの箱を2つ滑らせながら「どうしたら同時に滑るのかな」と何度も何度も繰り返し「重ねたらどうだろう」と予想を持ちながら自分なりのやり方で試し確かめる4歳児の姿を紹介し遊びの中に思考力につながるものがたくさん含まれていると話された。最後に5歳児のおやつ時に友だちとの関係が深くなってくるとただ分けるだけでなく同じ

分量にして分けるところに大事な意味が込められていること、そして一輪車の事例で乗れるようになった子が乗れない子に自分が乗れるようになるまで、どのような思いで過ごし、どのような思いで不安だったのか、どうしてもらおううれしかったのか自分の体験に裏付けされた言葉で一生懸命声をかけている姿に幼児期らしい学びが感じられたとのことであった。子どもの傍らにいた私達は子どもの言葉、行動のみならず内なる思いにも寄り添いながら遊びを見ていかなければならないと改めて強く感じた基調講演であった。

(研修事業部長 山崎 和子)

第2回 園長・設置者研修会 報告

平成25年2月22日(金)

「保育の質・保育者の質の向上とは何か～『死を招いた保育』で訴えたかったこと～」

講師●東京都市大学人間科学学部客員准教授 猪熊 弘子 氏

講師の猪熊弘子氏により、平成17年(2005)年8月10日埼玉県上尾市内の市立保育所内で、4歳のU君が本棚の下引き戸のついた戸棚の中で亡くなってしまった事件について、レジュメの他に画像を使い、多くの実質的な資料から講演が行われた。

事件の概要から説明され、U君の死を招いてしまったのはなぜなのかを、事件の検証や現場の様子などから8つの問題点を指摘された。また、子どもの命を守るために必要なチェック事項について話され、もし事故が起きてしまったら幼稚園はどう対処した

らよいかについて述べられた。

参加した43名は最後まで熱心にメモを取りながら聴きいていた。



Congratulations

平成24年度
神奈川県私立学校教育功労者表彰
受賞おめでとうございます

金子 敏明 先生

(学校法人金子学園 上の原幼稚園 理事長・園長)

※神奈川県私立学校教育功労者表彰:

私立学校教育の振興を図るため、私立学校の教職員、校長、園長、理事長及び設置者等を対象として、他の模範となる特に顕著な功績をあげた教育功労者を表彰することを目的とする。

編集後記

春のとびらまでもう一歩。悪魔的とも思える砂嵐の洗礼が続いている中、あちらこちらから漂う沈丁花の香が学期末の惜別のイメージを幾重にも回想させてくれます。

さて、本年度協会報の発行は本号を以て最終となります。年度末までのギリギリの校正作業が続きました。惜しみなくその任に当たってくれた部員の方々に感謝です。また、終わりになりますが、年間を通じて助言、ご支援を頂きました皆様に深謝申し上げます。

(広報部長 井上 貴恭)